

1. ユーザーサポートに関するアンケート結果

ユーザーサポート専門委員会

当専門委員会では、センターニュース前号配布時にユーザーサポートに関する学内利用者からのアンケートを実施しました。以下にアンケートの集計結果を報告します。また、アンケートの設問2の各項目に対するセンターとしての簡単な回答を作成しましたので合わせて掲載します。

今回のアンケートの有効回答数は32であり非常に少ないと言わざるを得ません。この原因の一つとしては、情報連携基盤センターが本年度から改組されたにもかかわらずそのことがまだ十分に学内に浸透していないため、旧大型計算機センター時代からのユーザ以外の方は、当センターのユーザであるという意識が希薄であることが考えられます。今後、当センターのサービスを拡充するとともに、それを十分に広報する体制を整備する予定です。

. アンケートの内容

1. これまでに、情報連携基盤センター（旧大型計算機センターを含む）のサービスを利用したことがありますか？

はい いいえ 2. にお進みください。

「はい」の場合、それはどのようなサービスですか？

- スーパーコンピュータ
- 汎用計算サービス
- メールサーバ
- 画像処理システム
- 媒体変換サーバ
- キャンパスワイドモバイルネットワーク実証実験
- ソフトウェアダウンロードサービス
- その他()

2. 今後、情報連携基盤センターにどのようなサービスを期待しますか？

以下の項目のうち重要と思われるもの6個以内にチェックをしてください。

- 学生証，職員証のICカード化
- 個人認証サービス
- ネットワーク構築，設定などのコンサルティング
- ネットワーク端末の貸し出し

- 全学無線LANサービス
- IP電話サービス
- 学内ネットワークの一元管理
- 学内IPアドレスの一元管理
- 学内メールサーバの一元管理
- 自宅など学外からの情報基盤サービス利用
- ネットワークディスクサービス
- サーバホスティングサービス
- 研究室/個人ホームページ開設サービス
- パソコンの設定補助とトラブル処理
- 情報セキュリティ対策
- ウィルス対策
- スーパーコンピュータ
- 研究成果情報（論文，特許など）の一元管理
- 学内出版物（テクニカルレポート，学位論文など）の電子出版化
- 教育関連情報（シラバスなど）の一元管理
- 附属図書館と連携した電子図書館サービス
- 新しい情報技術の啓蒙，講習会の実施
- その他（ ）

3．情報連携基盤センターへの相談窓口の形態としては以下のどれが望ましいと思いますか？

（複数回答可）

- 面談 電話 メール Webページの「質問回答集」の充実
- その他（ ）

4．その他，情報連携基盤センターに対するご意見を自由にご記入ください。

回答者の所属部局（必ずご記入ください）：

氏名（記入は任意）：

. アンケート結果

* 回収率

2100部配布（学内のみ） 有効回答数 32 回収率 1.52%

* 回答者の所属組織

工学研究科・工学部	10	医学系研究科・医学部	6	情報連携基盤センター	3
理学研究科・理学部	2	環境学研究科	2	総合保健体育科学センター	2
環境医学研究所	1	情報文化学部	1	遺伝子実験施設	1
太陽地球環境研究所	1	物質科学国際研究センター	1	総務部	1
不明	1				

* 設問1の集計結果

はい 28

メールサーバ	19 (68%)
ソフトウェアダウンロードサービス	14 (50%)
汎用計算サービス	13 (46%)
スーパーコンピュータ	5 (18%)
画像処理システム	3 (11%)
媒体変換サーバ	2 (7%)
キャンパスワイドモバイルネットワーク実証実験	1 (4%)

いいえ 4

* 設問2の集計結果

ウィルス対策	22 (69%)
情報セキュリティ対策	18 (56%)
ネットワーク構築, 設定などのコンサルティング	13 (41%)
附属図書館と連携した電子図書館サービス	13 (41%)
新しい情報技術の啓蒙, 講習会の実施	12 (38%)
全学無線LANサービス	10 (31%)
自宅など学外からの情報基盤サービス利用	10 (31%)
スーパーコンピュータ	9 (28%)
学内IPアドレスの一元管理	8 (25%)
パソコンの設定補助とトラブル処理	8 (25%)
学内出版物(テクニカルレポート, 学位論文など)の電子出版化	8 (25%)
学内ネットワークの一元管理	7 (22%)
IP電話サービス	6 (19%)

研究室/個人ホームページ開設サービス	6 (19%)
学内メールサーバの一元管理	3 (9%)
学生証, 職員証のICカード化	3 (9%)
教育関連情報(シラバスなど)の一元管理	3 (9%)
ネットワークディスクサービス	2 (6%)
サーバホスティングサービス	2 (6%)
個人認証サービス	2 (6%)
研究成果情報(論文, 特許など)の一元管理	2 (6%)
ネットワーク端末の貸し出し	1 (6%)
その他(MLの運用)	1 (6%)

* 設問3の集計結果

メール	25 (78%)
Webページの「質問回答集」の充実	18 (56%)
電話	16 (50%)
面談	11 (34%)

* 設問4に記入があったアンケートも少数ありましたが, 内容はおおむね設問2と重複するものであるため, 詳細は割愛します。

・ 設問2 . の各項目に対するセンターの回答

「ウィルス対策」

NICE3の予算で, ウィルス対策ソフトウェアのサイトライセンスを取得し, ダウンロードサービスを実現するとともに, 外部から内部への電子メールウィルス対策を実現しています。現在, NICE内部から外部へのメールウィルス対策を実現すべく予算獲得にむけて努力しています。これらのシステムの運用には多大のソフトウェアライセンス料の負担が必要で, 今後全学的な手当てが必要と考えています。

「情報セキュリティ対策」

センターでは, 早くからネットワークセキュリティを確保するために, ファイアウォールによるフィルタや侵入検知システムによる監視を行っています。セキュリティポリシーやガイドラインの策定に主導的役割を果たしてきました。また, 個別ホストでのセキュリティ対策の充実のために, 今年度より, 学内に向けて, セキュリティ講習会を開催しました。しかし, 現状では, 予算や組織の制約で, 夜間や休日のセキュリティ監視体制に問題があります。

「ネットワーク構築・設定などのコンサルティング」

従来より、建物新築や改修にともなうネットワーク設計に関する相談を行っています。また、研究室レベルでのネットワーク関連の相談には、IT相談の一環として応じています。

「附属図書館と連携した電子図書館サービス」

本センターの教官のうち4名が附属図書館研究開発室の室員を兼任するなど、附属図書館とは緊密な連携を行なっています。今後、情報技術の進展とともに、学術情報流通のあり方も変化していくことが予想されます。そのような変化に的確に追随し常に最先端の電子図書館サービスを提供できるように研究開発を進める予定です。

「新しい情報技術の啓蒙、講習会の実施」

センターでは利用者を対象とする講習会を、年間に15回ほど（前半時期）開催しています。

講習会は、VPP講習会・データ解析講習会・C言語講習会・画像処理講習会・UNIX講習会・大型パッケージ講習会等を中心に、その時々の利用者のニーズにあわせて計画します。講習会の年間実施計画は、年度当初のセンターニュースで案内します。個々の講習会の開催案内は、そのつど速報（メール・ホームページ）に掲載すると同時にポスターの掲示もしています。

「全学無線LANサービス」

情報連携基盤センターでは、「ユビキタス情報基盤」実現のため、全学無線LANサービスの概算要求を行っています。また、技術的な裏づけを行うために、「名古屋大学無線ネットワーク実証実験」（<http://www.wnet.cc.nagoya-u.ac.jp/web>）を実施しています。本実験に興味のある方は、ご連絡ください。

「自宅など学外からの情報基盤サービスの利用」

センターでは、全国共同利用ユーザに対してはppp接続サービスを行っています。また、インターネットからのセキュアな接続環境の提供として、情報メディア教育センターがVPN接続サービスを平成15年4月から開始する予定になっています。詳しくは、情報メディア教育センターにお問い合わせください。

「スーパーコンピュータ」

情報連携基盤センターでは、常に世界最高水準のスーパーコンピュータを導入してきており、現在はVPP5000/64（理論最大性能614.4 Gflops、主記憶容量1TB）を運用しています。利用者の増大する演算需要を満たすために、より処理能力の高いスーパーコンピュータへの更新を現在計画しています。また、ソフトウェアの充実にも努めていきます。

「学内IPアドレスの一元管理」

IPアドレスのデータベースの構築及び検索サービスにより、一元管理を部分的に実現しています。IPアドレス発行までを含めて一元的に管理しようとする、IPアドレス管理システムの構築及び運営費用や運用のための人員の増強が必要です。

「パソコンの設定補助とトラブル処理」

個々のパソコンの設定補助やトラブル処理については、人的資源の関係からも、十分な対応は困難ですが、ネットワークやセキュリティに関する対応は行っています。また、基本的なQ&A集については、IT相談室 (<http://www2.itc.nagoya-u.ac.jp/riyou/itsoudan.htm>) において、対応をしていく予定です。

「学内出版物（テクニカルレポート、学位論文など）の電子出版化」

サービスの提供を予定しています。実施にあたっては、附属図書館を始めとする学内の各部局との連携のもと、集積度の高い電子出版基地局の実現を目指しています。現在、学術情報開発専門委員会に電子出版ワーキンググループを設け、学内の学術情報発信の現状について調査を進めるとともに、学術情報の電子出版の実現可能性、及び、そのための統一的な仕組みについて検討しています。

「学内ネットワークの一元管理」

NICE 3の基幹部分については、監視及び予防保守を実現しています。建物内の設備までも対象にしようとする、学内体制の見直しや人的措置、予算措置が必要と考えます。

「IP電話サービス」

センターでは、15年度及び16年度に試験的なサービスを行うための概算要求を行っています。

「研究室/個人ホームページ開設サービス」

情報発信の支援という意味で重要なサービスであることを認識しておりますが、人的・経済的制約により、現時点ではWebページ制作サービスを行なうことは考えておりません。しかし、サーバホスティングサービスの一環としてWebサーバの提供は行なう予定です。

「学内メールサーバの一元管理」

21世紀COE研究グループに対するサポートを手始めに、現在検討を行っています。また、情報メディア教育センターと連携してメールアプライアンスサーバを利用した「全学メールサービス」を準備しています。このサービスを利用すると、名古屋大学の学生・教職員であれば、POPまたはIMAPを利用してID@mbox.nagoya-u.ac.jp（予定）のアドレスを使用してメールのやり取りを行うことができます。メールサーバの管理はセンターで行いますので、メールサーバの管理から

解放されます。

「学生証・職員証のICカード化」

センターでは、15年度及び16年度に試験的なサービスを行うための概算要求を行っています。

「教育関連情報（シラバスなど）の一元管理」

教育関連情報の整備は、学生に対するサービス向上という面のみならず、教育の外部評価という観点からも重要性を増しています。今後、教育関連情報の管理、発信体制のより一層の充実をはかるために、情報メディア教育センターや各学部、研究科との連携を進める予定です。

「ネットワークディスクサービス」

センターでは、大学ポータル専門委員会を中心に「名古屋大学ポータル」の構築を行っています。名古屋大学ポータルでは、Webメール、個人スケジュール管理、講義支援システム（WebCT）サービスなど、さまざまなサービスが検討されています。今後、簡単なファイル保管・共有が可能なサービスもポータルを通じて提供できるよう、検討させていただきます。

「サーバホスティングサービス」

現在、試験的な運用を始めています。具体的な内容としてはサーバマシンの管理・運用、メーリングリスト、Webサーバなどを提供する予定です。手始めに21世紀COE向けにサービスを開始いたしますが、順次、全学向けのサービスとして拡充していく予定です。

「個人認証サービス」

センターでは、16年度に試験的なサービスを行うための概算要求を行っています。

「研究成果情報（論文、特許など）の一元管理」

研究成果に関する基礎データをデータベース化し、学内外にわかりやすい形で発信することの重要性が増しています。名古屋大学では、全学の研究者プロフィール、産学連携用のデータベースなどが整備され、さらに独自のデータベースを管理している部局もあります。今後、それらを連携するための学内調整を進め、大学全体としてさらに充実した研究成果情報の管理体制を目指す予定です。

「ネットワーク端末の貸し出し」

大学への新たな転入教官に対してメールやWWW閲覧など最低限の情報アクセス環境を保証するために一時的に端末機器を貸し出すことは、海外の大学ではよく行なわれているサービスです。また、研究会や展示会のために短期間だけ端末を必要とする場合もあると思われます。現在の本センターの人的、経済的な制約からこのようなサービスを直ちに実行することは困難ですが、今後も引き続き実現可能性の検討を行ないます。

「その他（MLの運用）」

センターでは、既にメーリングリストの運用サービスを行っています。メーリングリストの運用を開始するには、センターへの利用申請が必要です。センターの利用者であれば、所定の申請書により申請できます。